

令和九年度 大学院人文科学府修士課程第1期入学試験問題

（日本史学）

次の一～八の設問から6問を選び解答せよ。但し、解答は全て縦書きとすること。

〔二〕 日本古代史に関する次の①～⑧の用語から五つを選択し、それぞれ三行以内で説明せよ。

- ① 古事記
- ② 大化改新
- ③ 位階制
- ④ 初期荘園
- ⑤ 桓武天皇
- ⑥ 日本三代実録
- ⑦ 受領功過定
- ⑧ 藤原実資

〔三〕 左に掲げた史料は、『続日本紀』和銅三年（七一〇）正月壬子朔条（新日本古典文学大系本）である。これに関する設問（一）～（二）に答えよ。

天皇御大極殿受朝。隼人・蝦夷等、亦在列。左將軍正五位上大伴宿禰旅人・副將軍從五位下穗積朝臣老、右將軍正五位下佐伯宿禰石湯・副將軍從五位下小野朝臣馬養等、於皇城門外朱雀路東西分頭、陳列騎兵、引隼人・蝦夷等而進。

（一） 全文の訓読文（読み下し文）を作成せよ。

（二） この史料が示す儀礼について、自由に詳論せよ。

〔三〕日本中世史に関する次の①～⑧の用語から五つを選択し、それぞれ三行以内で説明せよ。

- ① 知行国
- ② 大田文
- ③ 下地中分
- ④ 神仏習合
- ⑤ 専修念仏
- ⑥ 惣村
- ⑦ 国人
- ⑧ 貫高制

〔四〕左に掲げた史料は、源頼朝の発給文書（「島津家文書」）である。これに関する設問（一）～（五）に答えよ。

（花押）

下 伊勢国波出御厨

補任 地頭職事

左兵衛尉惟宗忠久

右件所者、故出羽守平信兼党類領也、而信兼依発謀反、令追討畢、仍任先例、為令勤仕公役、所補地頭職也、早為彼職、可致沙汰之状如件、以下、

元暦二年六月十五日

（注）元暦二年＝一一八五年。

- （一）この文書に古文書学的名称を付けよ。
- （二）花押の位置について考えるとどこを簡潔に述べよ。
- （三）二行目から六行目までを読み下せ。必要に応じて読点を句点に改めること。
- （四）二行目から六行目までを現代語訳せよ。
- （五）この文書が発給された政治的背景を簡潔に述べよ。

〔五〕 左に掲げた史料に関する設問（一）～（四）に答えよ。

著作権法上の理由により,WEB 公開版では削除した。

（早稲田大学所蔵）

(一) 史料全文の釈文を作成せよ。但し、改行は本文通りとすること。また、適宜、読点を施し、漢字は現行通用のものを用いること。なお、変体仮名は、現行の平仮名を用いること。

(二) 史料にある文書の作成者・志筑忠次郎（忠雄）を説明せよ。

(三) 史料にある文書の宛先・大槻玄沢について、その著作を一点記せ。

(四) 志筑忠雄と大槻玄沢にふれつつ、近世日本における蘭学の受容と展開について論ぜよ。

〔六〕 日本近世史に関する次の事項①～③について、それぞれ五行以内で論ぜよ。

① 武家諸法度の成立とその内容の変容

② 天草・島原一揆の要因と後世への影響

③ 尊皇攘夷思想と水戸学

〔七〕次の史料を読み、設問（一）～（三）に答えよ。史料は、一部書き改めている。

拝啓餘寒料峭困却之事ニ御座候先刻御郵書拝讀ニ付直様御邸へ可相伺積ニテ電話ヲ以テ御都合相伺候處
既ニ河本氏方へ御越相成候由治療其効ヲ奏シ速ニ御全快之程切ニ相祈候

今朝来只今迄得タル報告ヲ綜合スレハ時局ノ經過左ノ如クニ相聞へ候

徳川公ハ今朝参内御内命ニ對シ拝辞シタル由是ヨリ先キ清浦子ハ昨夜山縣公ヲ訪問シ今朝ハ松方侯ニ
面會シ其結果カ松方侯ハ本日午後参内セル由（一説ニハ本日モ元老會議開カレ居ルト言フコトナレト
モ慥カナラス）

清浦子ハ先刻華族會館ニ於テ往訪ノ新聞記者ニ對シ松方侯ノ奏薦ニ依リ明日頃自分ノ内閣組織ノ大命
下ルコト、ナランガ其場合自分ハ早速御受ヲ為シ超然内閣ヲ組織スヘシ

今朝ノ某新聞号外ニ自分カ昨夜原敬氏ニ面會シテ其援助ヲ求メタル趣旨記載セラレタルモ右ハ全然無
根以ノ外ノ事ナリトテ得意満面意氣軒昂ノ躰ナリシト申事ナリ

政友會内ノ清浦ニ對スル感想ニ関シテハ種々ノ風説アルモ真相未タ慥カナラス何カ情報アラハ追テ申上
クヘシ

右所聞概略及御内報候呉々モ御静養相祈候

頓首

三月三十日

加藤高明

大浦老閣

侍人

（『宮津市立前尾記念文庫所蔵元勲・近代諸家書簡集成』）

（一）傍線部（「先刻」から「相祈候」）を読み下せ。その際、漢字は原則として現行通用の字体を用
い、句読点を付すこと。

（二）二重傍線部（「徳川公」から「申事ナリ」）について、その記述に即して内容を詳しく説明せよ。
なお、人物名については姓名を補うこと。

（三）この史料が作成された時期の日本の軍事・外交の動きについて、八行以内で記せ。

〔八〕 日本近現代史に関する次の用語①～⑤について、それぞれ四行以内で説明せよ。

- ① 国会期成同盟
- ② 三・一独立運動
- ③ 金解禁
- ④ 新体制運動
- ⑤ 原水爆禁止運動